（コーディネーター）

よろしいでしょうか。それでは次の事業に移りたいと思います。事業番号 33、文化財啓発普及事業についてご説明いただきます。お願いいたします。

（説明者）

それでは、文化財啓発普及事業についてご説明させていただきます。一口に文化財と申しましても、その範囲は広うございまして、古墳や寺跡などの遺跡や史跡、社寺や民家などの建造物。また、仏像や工芸品などだけではなく、淀川に生息します淡水魚、あるいは樹木など天然記念物も含んでおります。こうした文化財に対する市民の関心もさまざまでございますが、市民の文化財に対する意識を高め、文化財保護意識の高揚を図ることを目的に啓発事業を行っております。

それでは事業概要説明シート 64 ページをご覧ください。事業の内容でございますけども、①の文化財説明板の設置から⑨の刊行物の発行まで、さまざまな事業に取り組んでおります。この事業の必要性につきましては、文化財を保護するためには文化財に対する市民の認識と保護意識を高揚することが必要と考えております。

次にコストですけれども、事業費の 85%が人件費で、残り 15%は直接経費でございます。財源の内訳でございますが、国庫支出金の 100 万円は歴史シンポジウムの事業費で、枚方中部地区まちづくり交付金事業で歴史遺産活用啓発事業として取り組んでいるものでございます。受益者負担は、刊行物販売収入及び市民歴史講座等の参加費でございます。平成 21 年度の事業費の内訳は啓発普及経費としまして市民歴史講座 8 万 3,000 円、文化財展示会 2 万円、文化財説明板設置に 100 万 4,000 円で、歴史シンポジウム開催経費が 100 万円でございます。

活動実績は、歴史関連イベントの参加者数で 21 年度は 4,914 人でございます。単位当たりのコストは、総事業費用を参加者数で除した値で 21 年度は 2,798 円となっております。

成果目標は、歴史関連イベント等の参加者を増やすことにより、より多くの市民の文化財に対する保護意識を高めることでございます。

続いて自己評価ですけども、参加者数が増えてきておりまして、またアンケート等では文化財の価値について再認識したというものも中にはございます。市民の文化財に対する保護意識を高めることができていると評価しております。

今後の事業の方向性でございますが、参加者アンケートなどで市民のニーズを把握する一方、魅力あるテーマでシンポジウム、あるいは歴史講座など開催して歴史関連イベントの参加者数を増やすことにより、より多くの市民の文化財の保護意識の高揚を図って参ります。

他の自治体での類似事業の例ですけど、平成 21 年度での近隣都市で歴史シンポジウムの開催状況は、八幡市教育委員会、交野市教育委員会でシンポジウムを開催されてお

ります。次ページ以降に各事業とそれぞれの内容について記載しておりますので、ご参照ください。
　以上で説明とさせていただきます。

（コーディネーター）
　ありがとうございました。それでは議論の方に移りたいと思います。質問等ある方いらっしゃいますか。

（仕分け人）
　資料の事実確認からお聞きしたいのですが、64 ページの国庫支出金、先ほどご説明あったのですが、これはまちづくり交付金で、文化庁の所管する埋蔵文化財発掘調査の補助金ではないんですね。

（説明者）
　おっしゃるように、まちづくり交付金事業の一環としてシンポジウムをやっております。

（仕分け人）
　66 ページ、67 ページの資料の参加人数を足していきますと、65 ページの資料にありますような 5,000 人近い数字にならないんですが、どういったものなんでしょうか。

（説明者）
　歴史イベントの参加者数ですが、文化財防火デーが 150 人、おおさかふみんネットが 90 人、百済フェスティバルが 4,000 人、歴史シンポジウムが 317 人、市民歴史講座が 109 人、百済寺跡現地説明会が 248 人ということで、平成 21 年度 4,914 人という数字でございます。この中には、展示会の分が、きららで文化財の展示という項目があると思うんですけども、そこの数字は入っておりません。展示会場には常に人がおりませんので、数字は入れてませんが、解説の資料を置いて、自由にお取りくださいということで置いてます。ちなみにはけた部数だけでいきますと、「発掘 30 年！優品でみる枚方の歴史」が 400 部はけております。「発掘 30 年！優品でみる枚方の歴史―人と道具の歴史―」というのが 210 部、「交野ヶ原の古墳時代」が 430 部はけておりますが、その数字は人数の中にカウントしておりません。

（仕分け人）
　歴史シンポジウム、実は私も参加したんですが、教育委員会だけじゃなくて、確か枚方市は発掘調査を専門にする機関をお持ちでしたよね。

（説明者）
はい。財団法人枚方市文化財研究調査会という機関がございまして、そちらと共同で開催をしております。

（仕分け人）
共同ですよね。

（説明者）
はい。

（仕分け人）
資料拝見しますと、広く文化財のすそ野を広げようというよりも、いわば物好きといったら怒られますが、こうした物を好きな人って 100 人のうち 1 人いるかどうかだと思うんです。で、多くの自治体はそれまで、今回資料をお作りいただいたようなことをやっていた方向が、経済の右肩下がりに下がっていって、発掘調査、こちらでいう調査会をお持ちのところはどんどん開発事業が減ってということから、他の自治体でしたら、教育委員会が文化財を所管しますので、学校現場に出て行って、できるだけ文化財のすそ野を広げようとかそういう試みをされてるところが、年々増えていってるように思うんですが、枚方市さんはそうしたことはされてないですか。

（説明者）
枚方におきましても、出前講座という形で小学校、中学校あるいは校区の老人会含めて手掛けておりますし、おっしゃっていただいたような現地説明会というのは非常に大事に考えていきたいと思っておりまして、現地説明会の前には必ず新聞、TV、ラジオを含めたマスコミにどう訴えていけるのかということを非常に大事に一つ考えて、どういう形でそれが広く発信していただけるのかというのを一つ大きなポイントに置いております。それとともに、やはり今おっしゃっているのは埋蔵文化財、地中に埋まった部分の現地説明会ということでおっしゃっておられるように感じたんですが、それも発掘してまた埋め戻すか、その遺構がなくなるかのどっちかなんですね。そういうときは二度と見られないということで、非常に大事にしていきたいということが一つありますし、重要文化財の神社の屋根葺き、修理も行っておりますけども、そういう場合の現地説明会でしたら、例えば檜皮で実際に模型の屋根を持ってきて、子どもたちに竹釘を打つ体験も合わせて、見るだけでなしにしてもらう、というようなことも兼ねて、おっしゃっていただいた現地説明会は大事にしたいというふうに啓発の中でも思っております。

（仕分け人）

とても大切なことだと思うんですが、資料には一切出てきませんので、そういった活動をされてないのかなと思ったものですからお聞きした次第です。

（説明者）

本年度これはシート、21 年度の事業なんですけれども、本年度第三中学校という中学校の建て替えに伴います発掘調査がありまして、その現地説明会におきましては、当然中学校の生徒あるいは近隣の小学校の児童を対象に現地説明会を行っております。

（仕分け人）

先ほど檜皮の竹釘打ちですとか、今のようなものは費用がかかっておられますか。

（説明者）

それは例えば神社さん、重要文化財の屋根の葺き替えでしたら、事業主体は神社さんになるんですけども、国庫補助と枚方市も残りの何%分かも補助することになりますけど、それも国庫補助の中に含まれておりまして、できるだけ文化庁の方もそういう機会を作るようにという指導もございますので、そういうことをやっております。

（仕分け人）

あと、もう一つちなみに教えていただきたいんですが、ふるさと文化再興事業みたいな民俗の関係の事業とかも、文化庁の所管事業で 100%持ってくれて地方自治体の経費の支出がかからなくていい事業とかそんなことはされてますか。

（説明者）

例えば伝統文化こども教室だとか、お茶、生け花、尺八でありましたり、そういうこともやってますし、弥生時代の住居の屋根の葺き替えなんかも子どもたちの体験学習ということで文化庁の補助事業としてしてきたこともございます。

あと、地域の方がそれぞれ自分たちで活動なさってるのをサポートする、これは数字では表れてこないんですけど、例えば枚方第二小学校が写ってる校舎、この絵なんですけども、この後ろの山も一号線が通ってないんですけど、こういう田宮の歴史っていうのを 10 年かかって地域の方が自費出版された。10 年間我々は地域の方のご相談に乗ってきた。こんな事業なんかはあまり目に見えてこない。だけどもそういうことが大事だと思ってますし、こういう渚院というパンフ、これは啓発冊子の中でも枚方市の中でたくさん出てる方なんですけど、1 部 100 円なんですが、これなんかは渚院を考える会ということで地域でそういう会がございまして、最終的に教育委員会の名前で発行しましたけども、そういう取り組みは地域でなさってる。そういう取り組みに対して、文化財課としてもできるだけサポートしていきたいし、一緒にやっていく姿勢というのを啓発の中でやっておるところです。

（仕分け人）
　こうしてたくさんされてるのに、色んなことが表れてこないのかなと思うんですけれども。

（説明者）
　ここの事業名で、直接経費がかかって事業として挙がってるということで、今回シートに挙げさせていただきましたので、この辺のところは数字では上がってこないということなんですね。

（仕分け人）
　普及啓発事業でもこの事業でのお金は使ってないので、これには載らなかったということですか。

（説明者）
　文化財啓発普及活動ということでしたら、我々の仕事がほとんど入ってしまうような形なんですけれども、一応事業名として文化財啓発普及事業という事業名で行っているのはこれだけです。

（コーディネーター）
　そういった場合ですと、補足資料で補足いただいてもいいと思います。他にありますか。

（仕分け人）
　今色々わかったわけですけど、これだけの事業、言葉も、あえて仕分けられてこれだけだとおっしゃらずに、やっぱり文化事業の普及を展開していこうというのであれば、もっとメディアを使って、そういうことを知らせていただくということも必要ではないかと思いますね。私も自分の故郷、地元について全く関心がないわけじゃないんですよ。ただなかなか行けないと、アクセスのことがありますけど、しかし枚方市はやはりこういった伝統文化、埋蔵文化財がありますということを、もっと積極的に展開する方法があるんじゃないかと思いますね。そこが少し残念ですね。非常に多くのことを取り組んでおられることはよくわかりました。

（コーディネーター）
　他に何か。

（仕分け人）

人件費がほとんどということであるんですけども、この 1.4 人の内訳というか、どういったことをされているのかというのを具体的にお願いいたします。

（説明者）

文化財の説明板の管理、設置等の業務が 0.07 人、それからふみんネットが 0.08 人、文化財の防火デーが 0.05 人、百済フェスティバルが 0.13 人、伝統文化こども教室これが 0.08 人、広報ホームページ文化財情報システム 0.25 人、特別事業許可貸出写真管理、図書、販売 0.03 人、市民歴史講座 0.1 人、シンポジウム 0.07 人等々で 1.41 人という形になっております。

（仕分け人）

この文化財の展示、ここでは輝きプラザきらら展示ルームって書いてあるんですが、それ以外にもちろん色んな文化財たくさんあるでしょうから、色んなところで展示されているんでしょう。

（説明者）

残念ながら、40 万都市なんですけども、美術館、博物館がございませんで、きららの展示室が主な展示会場になっております。その前は百済寺跡、特別史跡になっておりますが、収蔵庫がございまして、春は展示会をやってたんですが、今は再整備をやって発掘調査をやってまして展示スペースがございません。あとここには上がっておりませんが、博物館はございませんが、資料館として旧田中家鋳物民俗資料館というのと枚方宿鍵屋資料館というのがございまして、そこではそれぞれ常設展示なり企画展示をして、これは両方とも指定管理になっておりますので、指定管理者の方で展示会をしてるということです。

（仕分け人）

鍵屋資料館というのはある面、観光資源でもあるわけでしょう。どのくらいの方が来館されて、詳細承知しておりませんけれども、そういうところには、やっぱりそういう鍵屋資料館のコンセプトにあった物以外は置いてないという形ですか。

そういうところに関連させながら、市民に紹介したいものを市民だけじゃなくて、ということはキャパの面でもできないんですか。

（説明者）

非常に狭い、昭和 3 年の建物の 1 階を利用したところですので、展示ケースそのものも博物館のようなものではありませんので。

（仕分け人）

鋳物民俗資料館の方もそうですか。

（説明者）

鋳物民俗資料館の方が、屋外展示、屋外展示に近いですけど、それでも主屋を使いまして、日々の暮らしという意味での民俗関係の展示はしております。鍵屋の場合ですと一応まがりなりにもなんとか展示ケースがございますんで、例えば、市指定しました大般若経１巻を特別に期間を短くして展示すると、お披露目するということには使っております。

（仕分け人）

この輝きプラザきららの展示ルームには大体どのくらいの方がお見えになるんですか。

（説明者）

受付人がおりませんので、先ほど申しましたように数のカウントしておりませんが、自由にお持ちくださいということで資料を置いております。家族で来られて全部の一人ひとりが持って行かれるかどうかそんなのはわかりませんが、はけた部数で言いますと先ほど言いました「発掘 30 年！優品で見る枚方の歴史」400 部、「人と道具の歴史」210 部、「交野ヶ原の古墳時代前期古墳を中心に」は 430 部というふうな部数ははけております。

（仕分け人）

同じ教育委員会の中でも結構縦割りってのがあって、例えば市内に立派な図書館があってもここは本を置くところだ。字引は置くけどもそれ以外のものは置かないというとこもあるんですが、そういうコーナーを利用して色んな展示、企画展だけじゃなくて常設でですね、そういったものにしょっちゅう大勢の市民が来られるわけですから、市民の目に触れられるような使い方してる自治体もあるわけです。いわゆる図書館というはっきりした図書館中の図書館だという枠組みを若干緩めて。

（説明者）

枚方の場合も、大抵図書館、分館は、今は公民館とは呼びませんが、生涯学習施設と一緒になっておりまして、展示ケースを置いていくつかそこに展示してるというところは数か所ございます。

（仕分け人）

目的のところで伺うんですけど、市民の文化財に対する認識を深め、文化財保護意識の高揚を図ることということで本事業を展開されてますけど、市民の文化財保護意識の

高揚を図られると、その結果どんなことが起こるんですか。どんなメリットになるんですか。

（説明者）

文化財保護の中でですね、保護するというのは保存と活用ということがあるかと思うんですけど、地域にこういうものがあるということをその方たちが住んでおられるところにこういうものが、歴史、文化遺産としてある、まず知ってもらうところから、まちづくりにどうつながっていくのかなと。そういう発想を一つは考えていただきたいということで、我々は地域のこういう自分たちのあるところの物を、自分たちで勉強して、今は渚院を見せましたけれども、こういう「くずは物語」という継体天皇 1,500 年記念のときに、地域の方、まあ小中学校の先生方が中心になって我々も協力しながら作られた。こういうことが地域の、例えば楠葉で言いますと、今までの商店街の名称が樟葉宮表参道商店街に変えられて、そういう子どもたちも一緒になって、地域のまちづくりを考えていくという、そういうふうなところにつながっていけばなあという思いは持っております。

（仕分け人）

そうすると地域のまちづくりであるとか、子どもの郷土愛を深めるとかそういったところがより事業の実績に来ていたりすると思うんですね。それに対して、このターゲット、事業のターゲットの設定というのがちょっとわかりにくいかなと思うんですけど、例えば子ども向けっていうと、この事業の中で何があるのでしょうか。

（説明者）

例えば百済フェスティバルというのがそこの項目欄にあると思うんですけど、これで言いますと、今、特別史跡ということで、百済寺跡の再生に向けて発掘調査をしております。その中でそのことをより広く知ってもらおうという形で実行委員会「百済の会」というのが中心になって、実行委員会の中に教育委員会も入って、毎年 5 月の連休明けの土曜日、今年の場合は 10 周年ということで土日を使いましたけども、そのフェスティバルには近隣の小学生、中宮小学校とかがあるんですけども、小学生の子どもたちにもイベントに出演して、ずっと出演してくれてますし、中学生もそこに出てくれています。高校生は今や実働部隊と言いますか、パレードも含めて積極的に参加してくれてます。地域の大人の方もそういう意味では、小学生から大人まである意味ではフェスティバルに参加していただいているというのが代表的なものかなと思いますけれども、あとは先ほど申しました楠葉を例にとりましても、樟葉宮歴史懇話会というのもございますし、そういう中で大人の方と子どもの方と一緒になって活動していただくというような事例もございます。

（仕分け人）

わかりました。受益者負担のところなんですが、これだけの事業費かけていく中で、12 万 5,000 円トータルで、これはどういうふうに思われていますか。これは多いと思われてますか。少ないのでもう少し何とか受益者負担を増やしていこうと考えてらっしゃいますか。

（説明者）

ここに載ってる分で言いますと、実際の直接経費としては 200 万円ぐらいしか支出はしてないんですけど、最低限のことをやってるぐらいかなというふうに思っておりまして、経費的には少ないと我々は思っております。ただし、基本的なことだけはやれてるかなと思うんですけど、どうしても文化財、特に埋蔵文化財の場合は見つかりますと工事はできませんし、受益者負担で相手にお金はもらわなくてはいけませんし、そういう意味では理解を求めていくというのが大変な、日々まあそういう形で窓口業務をやってるわけですが。例えば、都市機構の例で言いますと、住宅公団、今は UR さんですけども、アミティ中宮というところでは、こういう形で説明板を今度新しく団地を建て替えるときに説明板を UR さんに作っていただいてる。あるいは民間開発される業者さんに、調査費ももちろんちょうだいしたんですが、あと提供公園を開発業者さんにこういう形で作っていただいてます。

それはやっぱり協力願うためには最低限、自治体としても最低限お手本となるような、見本となるような、そういう説明板にしましても、最低限作っておく必要があると考えてまして、そういう意味では最低限の啓発と言いますか普及活動かなと思っております。

（仕分け人）

事業費の中身で、下の段に文化財説明板設置 100 万円とあるわけですけど、これ 21 年度設置されたのが 66 ページ見ますと新設 1 件建て替え 6 件とあるんですが、これが 100 万円くらいしたと。どういうふうに調達されているんですか。

（説明者）

そこちょっとミスがありまして、実際には建て替えが 7 件で、新設が 1 件で、案内板が 1 件ということになります。案内板を入れますと 9 件ということになるんですが、以前は、昭和時代の分は木製のちょうどあそこ見ていただいたら、ガラスのカーテン部分にちょうど今なっているんですけど、これがアルミの説明板に今替えておる説明板でして、以前は木製の説明板で、木製の場合では 30 万円以上掛かってたのをアルミでいきますと、大体 9 万円前後 10 万円弱でできるということになりまして、どれだけもつかということはあるんですけど、木製の場合ですとどうしても下のコンクリートを巻いてるところがやられたり、場所によるんですけど。先ほど檜皮葺きの話をしましたけど、牧野の片埜神社さんなんかは木製の部分で痛んでる下の足を切りましてちょっと低く

なるんですけど、それで使えたら使う。ちょっとひさしに屋根になってる部分があると思うんですけど、今あれのように屋根を造っているだけではなしに、修理のときトタンの上に巻いて板を乗せるとか、板が痛んでたら板を削ってもういっぺん文字を書けるなら文字を書くというような色んな工夫はしております。それ以外に、ここで言いますと、あそこに石が見えますんで、文字だけの説明板になってます。あれは古墳が壊されまして、石室の天井石なんですけど、説明板がなかったら、ここなんかの土地で工事された人がこんな石と思われるだけで、いわば処分されてしまう可能性があるんですよね。そういうのって、文化財では結構あると思いますので、大事かなと思ってますし、目の前になくて、また地中に埋め戻したところとか、やっぱりカラーかなんかで写真でこういういくつの遺構がありましたとわかるような説明板にしないといけない。ああいう文字だけじゃないというのもありまして、場所とかそれぞれ何の説明するかによって変えております。

（仕分け人）
調達はこういう方式でやってくださいとか、それとも修理で何か発注されてるのか。

（説明者）
先ほど申したとおり、修理で発注する場合もありますし、仕様書を作りまして、工事込みでやっていただくような、一括で発注しております。競争入札になってます。

（仕分け人）
今回 66 ページ、67 ページで拝見した事業内容は、枚方市の一般財源で行うというような資料になっておりますが、別途、国庫補助事業の埋蔵文化財の発掘事業されてるわけですよね。そっちで見れる場合も大分あるんじゃないかなと思うんですが、そういうことはないですか。

（説明者）
埋蔵文化財の発掘調査の国庫補助につきましては、普及啓発に使うのはないです。

（仕分け人）
特に 9 番なんかは、それに該当するんじゃないでしょうか。

（説明者）
説明会ですね、現地説明会。

（仕分け人）
発掘報告書の刊行。

（説明者）
それは補助金をちょうだいしています。

（仕分け人）
この資料はでも、市の一般財源の分の資料なんで。

（説明者）
そうです。こういう啓発雑誌の部分については補助対象になってませんが、発掘したときの報告書は補助対象になりますので、それは補助金をちょうだいして発行しております。

（仕分け人）
そうですよね。ですので 67 ページの資料の 300 部、500 部、300 部は、補助金が入っていますよね。

（説明者）
啓発普及の冊子につきましては 21 年度は刊行はしてないんですけど、この 3 種類につきましては、それ以外で報告書等の刊行は行いましたということで、普及啓発冊子という意味で掲載したのではございません。

（仕分け人）
まちづくり交付金というのはある面不安定なんですよね。かなり色々使い方もある程度自由度がきくようになってるんですが、それにしても仮にこれがなくなったとき、シンポジウムはどうなるんですかね。

（説明者）
これを始めます前は単費で 100 万円組んでおったんですが、200 万円以上啓発で使いますと、文化庁の方の補助対象になってきますので、まちづくり交付金事業が 5 年で切れたその後についてはそういうことを含めて考えていきたいと考えております。

（仕分け人）
シンポジウム関連で 200 万円使ったら、100 万円の補助金が出るという意味ですか。

（説明者）
そうです。あの文化庁の補助事業としてはそういうのがございますので。

（仕分け人）
まだそういう補助金が残っていましたか。

（説明者）
まだあります。いつまでかと言われるとちょっとわかりませんが、まだあります。

（コーディネーター）
まだありますか。よろしいですか。それでは調査シートに沿って質問お願いします。枚方は結構そういう埋蔵文化財とかは出てくるんですか。

（説明者）
出てきますね。市域のほとんどが埋蔵文化財の包蔵地になっています。

（コーディネーター）
うちは近鉄沿線なんですけれども、最近、近鉄さんよくウォーキングイベントとかをよくやるんですけれども、観光とか文化財とかと一緒にやって、そういう普及啓発なんかもやって、地域の資源という形でされてるんですけれども。

（説明者）
やっております。で、こういう歴史ガイドブック、これはマップなんですけども、これなんかもそう散策コースになってますね。で、今まあこういう中で一番報道関係といいますか、マスコミさんに取り上げてもらうのが、一番僕らとしては広く行きわたりますので、そういう意味では現地説明会で 1,000 人くらい来られた楠葉中之芝にあります台場跡なんてのは枚方市の 4 番目の史跡ということで文化庁の方に申請しておりますけど、そこも台場だけを巡って歩く観光コースじゃないですけど、民間の観光ガイドの方が、そういうツアー組んでおられまして、全コースに入ってたりとかというのがございます。

（コーディネーター）
楠葉って結構団地とか大きなのもありますしね。そういった団地に新しく入って来られた方いらっしゃって、割とそういう方ってこういうものを興味があったりするんで、それがまたその地域を愛する心にもつながっていくと。

（説明者）
市政モニターなんかでの結果を見ましても、このまま枚方市に住み続けたいとおっしゃる皆さん方多いんですけども、その中にやはり住み続ける限りは地域の歴史文化遺産をもっと知りたいというそういう思いを持っておられる方が結構おられますので、そう

いう方たちともっと文化財保護について連携を取っていけたらなと日々思っておるところです。

（コーディネーター）
評価シートよろしいでしょうか。

（仕分け人）
先ほど文化財のファンを広げるためにということで、子どもたちへの出前のことをお聞きしたんですけど、そういったこともされてるということだったんですけど、今回の事業の名前は文化財啓発普及事業ですが、それはまた別の事業名でお持ちということなんでしょうか。

（説明者）
この啓発普及事業の中に含まれております。ただこの件数がさほどないということもありまして。

（コーディネーター）
では評価に移りたいと思います。事業番号 33、文化財啓発普及事業について評価を行いたいと思います。1 番不要（0 人）。2 番①民間（0 人）。2 番②国・府・広域（0 人）。3 番枚方市・要改善（3 名）。4 番枚方市・現行通（3 名）。3 名ずつの同数となりましたので、私が 1 票入れさせていただきたいと思います。私は、4 番枚方市・現行通に挙げさせていただきたいと思います。
この班の結論としては、現行通として結論付けたいと思います。個人的な感想ですが、今回の事業仕分けで一番いい議論ができたというふうに思っています。それはやっぱり説明者の方が自分の業務以外に関して、例えばまちづくりに関してだとかよく熟知しておられるのが原因だと思います。それでは評価に関してご意見いただきたいと思います。ご意見のある方、お願いします。

（仕分け人）
私は本当は改善じゃなかったんですよ。ところが聞いてみまして、非常に努力されてる、あるいはいろいろなことがわかりました。その中でせっかくそれだけの資料があるのに、それなりの文化財なり歴史があるということについて体系的に PR してほしい。例えば FM ひらかたに出て一回しゃべってみるのも面白いですよ。

（説明者）
出とりますよ。

（仕分け人）
ああ、出てる。じゃあもっと積極的に PR してください。それから K－CAT も。

（説明者）
それもしょっちゅう。

（仕分け人）
なるほど。そういうことは、何かの形で出てますよというのを、発信してますよということを PR してほしい。そしてまた今手持ちの資料それぞれ点々に載ってるんですけど、体系的に整理して、こういうことをやってるんだということをもっと広く市民に知らせていただければ。

（説明者）
ホームページのアクセスは結構多いんです。

（仕分け人）
多いんですか。今聞いて、ああなるほど、やっぱり枚方だなという感じがしましたね。

（コーディネーター）
他に。

（仕分け人）
市民の皆さんに多くは、こういうものがあると、そういうたくさんの文化財、埋蔵されてる、埋まっているものも含めてあるということご存知かもしれませんが、やはり外側にいる人間はそれ知らないという状況があって、やっぱり京都とか奈良とかに挟まれたということで、まあその分逆に目立たなくなっていると思いますので、いかにしてそれを広く市民の皆さんだけじゃなくて、観光資源としても活かしていくような前向きな取り組みということで、ここはやはり力を入れていく必要があるんだろうと思います。それは市民の枚方市に対するアイデンティティー、枚方の市民意識というものを磨いていく上でも有効なんじゃないかなと思います。

（コーディネーター）
よろしいですか。

（仕分け人）
私は 4 番に入れさせていただいたんですけども、もちろん枚方という土地柄、市域全域に文化財があって、有形無形含めて色々あると思うんですけど、今ここに書いていら

っしゃる 9 事業のターゲットが見にくいというのは非常にあるものですから、そこをもう少しきちんと、子ども向けなのか、それとも市民なのか、それとも外から来てる観光客なのかということで、事業をもう少し整理してもらいたいと思います。

（コーディネーター）

よろしいですか、それでは事業番号 33、文化財啓発普及事業は枚方市・現行通とさせていただきます。どうもありがとうございました。